



【はじめに】

木材は、断熱性が高く、調湿作用があり、目を与える刺激が小さいなど、人に心地よい感覚を与える素材です。

木材を建物や家具にたくさん利用し、手入れをしながら大事に使い続ければ、木材の中に固定された炭素をそれだけ多く、長い間蓄えることになり、大気中の二酸化炭素の濃度が上昇するのを抑えるのに役立ちます。つまり、木造建築物を増やしていくことは、街にもう一つの森林を造ることと同じような効果があるといえます。

北海道森林管理局では、外装・内装に地元木材を使用するとともにCLT(直交集成板)などを積極的に活用し、地域にやさしい木造庁舎の建築を目指しています。

昨年度建築した森林技術・支援センターと上川北部森林管理署士別森林事務所の合同庁舎について紹介させていただきます。

【新庁舎紹介】

森林技術・支援センター旧庁舎は、昭和28年に士別営林署として建てられたものでしたが老朽化が進み新築建て替えを行いました。

新庁舎の概要

- ・所在地 士別市
- ・構造 木造平屋建
- ・規模 延面積 357㎡

建物の特徴

<利便性の向上>

- ・執務室を南面配置とし自然採光に配慮しました。
- ・森林技術・支援センターと森林事務所の共用部を各々から使いやすいよう集約しました。
- ・誰もが利用しやすいよう到来者の動線上に段差をなくしました。

- ・多機能トイレを使いやすい位置に設けました。
- ・全館LED照明の採用やペレットストーブを設置しました。



執務室入口



ホール・多機能トイレ



玄関ホール・ペレットストーブ

<周辺環境との調和>

- ・周辺レンガ造りの建物と調和する色彩を外壁のアクセントカラーとして用いました。
- ・地域に親しまれる既存樹木を活かしました。

<環境負荷低減の推進>

- ・除雪作業がスムーズに行えるよう、堆雪スペースまで片押しで除雪できる構内としました。
- ・屋根の張り出しにより雪庇等による外壁面への影響を軽減しました。



外壁（レンガ調カラー）

木材利用の促進

- ・外壁面の一部を下見板張りとししました。
- ・風除室・ホールの内壁を羽目板張りとし、木材の温もりある建物としました。



外壁（トドマツ・カマツ・エゾマツの下見板張り）

- ・扉の一部を木製建具として、CLTを庁名板・パーティション等に用いました。（木材は、トドマツ・カマツ・エゾマツ・ナラなどの地元木材を多く使用）



パーティションにCLTを活用

【今後に向けて】

日本は国土の約3分の2を森林が占める世界でも有数の森林国。その森林の約4割は人が苗木を植えて育てた人工林です。

現在、戦後に造林された多くの人工林が、本格的な利用期を迎えており、資源量は年々増加していますが、木材の利用は十分に進んでいないのが現状です。

木材の良さを地域の皆さんに知ってもらい利用していただくため、今後も地元木材を使用した庁舎の建築に取り組んでいきます。



会議室

【森林技術・支援センター】

豊かな北の森林資源を未来へと引き継ぐために地域の森林の特性に応じた多様な森林づくりとして、北方の森林生態系の特質に応じた施業技術の開発とその普及・支援などを行っています。

【上川北部森林管理署 士別森林事務所】

国有林の管理を行いながら山地災害などから暮らしを守り、木材を循環的に利用できる森林づくりを行っています。

また、上川北部森林管理署と地元自治体等のパイプ役として、情報の収集発信など、地域の窓口としての役割を果たしています。



森林事務所